



ELCKA

ELCKA - это не просто бренд, это философия. Это искусство, это стиль, это уверенность. Это то, что делает вас собой. ELCKA - это вы.

© 2004 ELCKA



e l c k a

<L to R> マット・パーカー (key)、ハロルド (vo)、ローズ (b)、マーカス・サンフォード (g)、ダーレン・ペリー (ds)

「今すぐ大辞面されなくてかまわない。いずれ彼らの時代が来るってわかってるんだから」ヴォーカルのハロルドは、そう言っ
て不敵に笑う。英国流のダンディズムと大胆なドラマ性、耽美的なまでのデリカシー、あけすけなくらいの率直さ——そんな極端なものを併せ持つエルカの音楽は、難かに熱狂的に受け入れられるか、まったく無視されるかのどちらかに違いない。しかし、彼らのスター然とした風貌と確信に満ちた物言いを無視することはむずかしい。ならば断定的に受け入れよう。3年経には、あなたの先見の明が置られることになるかもしれない。

——エルカがインディからレコード・デビューしたのは'95年ですが、メンバーは5年以上のつき合いになるそうですね。
ハロルド (以下H): もっと長いつき合いだよ。僕たちは前世から一緒だったんだ (笑)。いや、何人かとは学校のときから一緒なんだよ。今もそうだけど、ずっとひとつ屋根の下に暮ら

して、昔からギャングみたいにつるんでいたんだ。一緒に音楽をやるようになってからはまだ5年かそこらだけだね。

——このバンドに入る前は何か?

H: 僕は俳優だった……正確には演技の訓練を受けただけ。小さい頃から俳優にならなくて、演技の勉強のために入った学校でダンスを学んでいたドラマー (ダーレン・ペリー) に出会ったのさ。ところが、そのうちポップ・ミュージックへの愛が目覚めてしまっただけ。そのきっかけという?

H: 子供の頃から音楽に囲まれてはいたんだけど、クラシックがメインだった。で、14、15歳のとき、当時のガールフレンドがJ2、デヴィッド・ボウイ、ロキシー・ミュージック、ドアーズといったアーティストを教えてくれたんだ。突然そんな音楽を聴き始めて衝撃を受けたよ。すごく新鮮でイキイキしていたインスピレーションにあふれていたから。それまで憧れていた俳優は人の書いた言葉を盗んだり他人の真似をしていただけなのに、音楽

なら演技することも自分自身の脚本を書くこともできるんだ。その方がずっとエキサイティングじゃないかって思ったのさ。

——音楽をやるのが目的で集まったバンドというのでは違うわけですか。

H: 全員それぞれ子供の頃からプレイを始めてきちんと基礎を積んでいる。だけど、音楽をキャリアとして考えたことはなくて、もっと独自の世界に没頭していたんだ。僕たちは共同生活をしていたし、サウス・ロンドンにクラブを持っていて、それをやりくりすることがすごく楽になっていたし。

——共同生活って、どのような?

H: 小さいところからいつも20人ぐらいの人間が出入りしていた。音楽があふれて、しょっちゅうパーティやって、近所はカンカンだったな。イメージ・ショーにまかせて監獄を火山の内部みたいにペイントしてみたり、セックス、ドラッグ、アートなど、とにかく面白いものならなんでもアリみたいな飛騨だった。——なんだか'70年代のヒッピーのコミュニー

んみたいですね。

H: そうだろうね (笑)。むしろにはアーティストや映画制作者など面白い人たちがいっぱいいたよ。僕たちのクラブでは友人のフィルムを映写したり絵を飾ったり、音楽以外にもクリエイティブなことがいろいろできた。ロンドン郊外の暮らしってすごく温かいんだよ。みんな同じカッカして、毎時半に起きて仕事へ行っていうコトばかりだった生活……僕らはこの家で今まで暮ってきたとは正反対の生き方をしようとしたんだ。返居から逃げるために、エキサイトできそうなアイデアにはほとんどん飛びついていった。この家はそんな実験の場だったんだ。

—それがバンド結成に至るいきさつ?

H: この世の中で最高のグループになるとやろうじゃないかってことでみんなの意見が一致したからさ。それが僕たちのアドナリンの向かって新しい方向だった。何枚もの素晴らしいアルバムを出し、できる限り多くの人々を感動させることのできる。激しにして最高のバンドになるっていうのがね。

—音楽テストはみんなを一鼓したの? H: ものすごく広範囲な興味を持っているという点でね。オアシスみたいなビートルズ……本職なんて、やらないことを形勢してまう知識の欠如とか思えない。音楽はパッパ

ともその面白いぶん曲を書いたけど。

—フースト・アルバム「スーパーチャージ」は報酬レコーディングされたんですね。 H: うん、曲はほとんど以前に書かれていたものなんだ。だから過去数年の形勢であるとともにバンドのイントロダクションの内容になっている。来月にレコーディングを始める予定のセカンド・アルバムはもっとコンセプト明確の焦点の定まった作品になるだろう。——曲作りは全員でやっているようですが、H: 歌詞は僕が書くけど、音楽に関してはとても民主的。全員集まって音を出しながら形にしていく。全員型やその他のこともすべて5人均等。5人あってこそこのバンドだから。リーダーがバンドを回している形はあまりにもエゴ臭い出でイヤだね。重要なのはその内容とライブ出演と結びついている。音楽と歌詞が共鳴してるとことなんだ。みんながパラスを取ってお互いを理解し合ってる、バンドの人間関係がしっくりしてこそ、歌は生命感を持って輝いてくるものだと思う。——でも意見が衝突することもあるでしょう。 H: うん (笑)。しょっちゅう。あまりにも長い付き合いだから兄弟みたいなもので、喧嘩も口論もよくするよ。だけど、うんとう愛し合ってることも確か。すごく情熱的な関係だからこそその緊張は避けられない。

カバパはいいバンドだけど、イギリス的すぎる。今共通を覚えるのはレディオヘッド。世界中で理解できるものを取って、そのスケールの大きさがエキサイティングだ。

——ではイギリス的な表現が目立ったブリット・ポップ・ブームが去って、今の状況はエルカにとって好ましいと思いますか。

H: そうだね (笑)。ハッキリ言ってエルカに比べて状況はいいだっていい。だって、素晴らしいバンドだったらまわりさんが聞かないから。僕の尊敬するバンドの多くは一度にして成功を収めたわけじゃない。今こそ大騒ぎされているレディオヘッドにしてもワーグにも、デビュー作はドクノバに置かれてた。だから僕たちは焦らちゃいけない。10曲でわかってもうらぶら、すごいバンドだってことをまわらつてほしいから。状況なんか気にしてない。まあ、よくなるはずさ。いづれイヤでもこの惑星全体にエルカの名前が轟き渡ることになるわけだから (笑)。

——すごい自信ですね。裏付けはあるの? H: だって選ばないなら意味がない。時間の無駄さ。9時から5時までの仕事でもしるって感じ。僕らは最高のバンドだと信じてるし、成り上がる自信を持っている。フースト・アルバムはここ10年の間に発表されたデビュー作の最高傑作の一收だと思う。で、次

ストリングスをふんだんに導入し、甘いメロディを奏でたかと思えば、突然牙を向いた狼のように荒々しいヴォーカルが襲いかかる…。危険な香りをブンブン匂わせるエルカのサウンドはまさに美女と野獣の出会い。縮身のスーツでビシッと決めた狼達の声を聞け。

インタビュー／文 沼崎敏子
pic: Sacha Teulon

いずれイヤでもこの惑星全体にエルカの名が轟き渡ることになる!

から始まって今に至るまでの同大女世界なんだ。デス・メタル以外はなんでも好きな僕たちの幅広い音楽への愛を反映させた作品を作りたい、というのがねに根柢にあるんだ。——ところで、エルカってなんですか? H: みんなでさんざん考えた挙句、プラーとかスウェードとか意味のある名前はないようにして、ひとり! 文字ずつ持ってきたものを並べてエルカにしたんだ。僕らから古代ギリシャの言葉では「人生の深淵」、スウェーデン語では「すべて」という意味があることがわかった。なかなかの選択だね (笑) ——メジャーのアイランドと契約したものの、以前のマネージャーとのトラウマのためしばらく活動が思うにまかせなかったのですが、H: マネージャーというより権利譲渡だぜ。インディ時代になっちゃって世間になったんだけど、メジャーと契約したと知って僕たち全員を要求してきて契約交渉になったんだ。僕たちはその間ポルトガルに身を潜めていて、何ヵ月も活動に足止めを食ってしまった。もっ

—作曲上インスピレーションを受けるのは? H: 個人的には映画から多くのインスピレーションを受けるね。シュールレアリスムのブルトン、ダリ、ミロ、それからダイスト、シュチュエシヨナリスト。シュールレアリスムが面白いのは自己の意識と無意識の関係を理解した最初の運動だから。僕らはそれを音楽を通して表現しているバンドだと思う。他にもたくさんある。スコセッジ、グリーンウエイ、ポランスキーといった監督の映画からの影響だよ。音楽ばかりに固まらないうちにしているんだ。一歩引くなって選ばないから。——そういう深遠さを持った世界を若いリスナーはちゃんと理解できると思いますか。 H: もちろんだよ! 広い影響を取り入れるというのは積極にすることじゃなく、よりシンプルでコアなものにすることなんだ。平明なフレーズで人の心に触れたい。一行でガツンとね。深い感情を持ったものだけにそれができるんだ。いちばんイヤなのはイギリス人だけわかる内輪受けの表現さ。プラート

のアルバムはさらに素晴らしいんだからね。モリッシーとアメリカ・ツアーをやったときも、観客の熱情的な反応に確信を強めたよ。——ところで、いつもスーツを着てるのか。 H: ハハハハ (笑)。いや、パッドの好まじや着てないけど。ドレスアップするのは好きだよ。僕たちはダンディズムの素晴らしい伝統を継承してるんだ。この言葉はともしても厭われないけど、もったいないぶつとらいいカッコを思い浮かべられちゃうんだけど、ダンディっていうのはスタイルに執着することのさ。バンドを観に行ったら観客とまったく同じカッコだったらシラケちゃうだろう? 僕たちはもっと繊細でいいじゃないか。 ——貴族には、ドレスを買いに行くにも…… H: スーツを着てるって? (笑) いや、顔目がアツめで、おっとミルカがないさ、じゃあスーツ着なっちゃう……っていうんじゃないんだ。ジーパンとかスニーカー一つで持たないから、僕ららしいカッコを穿たらただ。それでミルカを買いにいって。偉だっただいじゃないか (笑) (笑)



マン・オー・アストロマン

メイド・フロム・テクネチウム
/1000X

ROCK

PODパイ APCY-502
2,218円 税込 42,540円

CMJチャートで第1位のシカゴ出身の4人組ガレージ・サブ・バンドの再デビュー作。この選やなかなかの買入らしく、デビューのような次第に身と心自分たちをエイリアンと買い取り、32年デビューにしてすでに7枚もアルバムをリリースするという偉業を遂げてきている。しかしここは、かつてサブ・アルバムを企画、現在でもアルバムを録音するシカゴ・インディの名門タッチ・アンド・ゴーのバンド。ヒリヒリするようなエッジ、緊迫感溢れるスピード感、突きつけられるような破壊衝動を感じさせるビート、どれもこれも現存のガレージ・ロックの1品品。ギター・アルバムと「日本ガレージ・ロック」を最終やってほしいものだ。(大澤 隆) **1**



エンブレイス

ALL YOU GOOD
GOOD PEOPLE EP.

ROCK

東洋EMI VJCP-1558
発売中 42,520円

何でも、インディ時代にリリースしたシングル量があったという例に乗り切れて、新人不肖のイギリスで各社等輩が取り上げられたというホープ。エンブレイス、イングランド北部のリーズ出身の4人組です。基本的にはメロディロックのバンドですが、ジョン・レノンやデヴィッド・ボウイのフォークっぽい面から影響が、メロディや選んでいる曲色に表れています。やさしく和やかな曲だけでなく、ココサイク。バンド・サウンドなのにシンガー・ソングライター作品に感銘が近く不思議な魅力を加えています。フロントに立つvo.が兄弟というところでオアシスと似たか比較されがちですが、オアシスよりもアメリカ受けしそうな面ばかりです。(朝野西郎) **2**



エルカ

スーパーチャージ

ROCK

ワーナーミュージック PHCR 480
発売中 42,540円

イギリスの音楽シーンのめまぐるしさは今年に始まったことではないが、それでも、こう次々と新しいバンドが生まれてくると感心するというあたりも、ポップ・ミュージックの宿命ではあっても、それはまさに流れに身をまかせたかたのよう。今年生まれたかと思うや次の瞬間にはもう消えている。せめて記憶の片隅にこどもよろしいの命は残らせて欲しい。このロンドン生まれの4人組エルカはモリッソンのお気に入りとかで注目されているが、5年の共同生活を経てデビューしたとのこと。その間どうやって食ってきたのかはともかく、懐かしさもありつつも、自信も相伝。ナルシスティックなヴォーカルとドラム・パフォーマンス、"星"のあざやかなバンド。(大賀 幸典) **3**



ドーバミン

ドーバミン

ROCK

トイズファクトリー TFCK-4748
2,218円 税込 42,540円

2月号のレビューで紹介したビッグ・レッド・レグズ以来、90年代半に勃発したバンドは、少なからずグランジの影響下にありまうた。そんな嵐風となった時代の命を吸収後、消化と抽出の過程で各々が独自の命を遂げながらバンド独自の命や夢を積み出してきたわけだが、聖なる結成のドーバミンが発表された事はどうやらハード・ロックの王道のようだ。本デビュー作はヴォーカルを前面に押し出す異色の大衆型ハード・ロックを、グランジを通過した若者4人が今風に演出。といった内容だが、偉大で分りやすい音だけに保守的ロック・ファンにも支持されるはず。ちなみに彼らはアメリカで最初にロックを吸収した際、クワイアランドの出身だ。(安川 達也) **4**



フォー・マンチュー

アクション・イズ・オー

ROCK

ポニーレコード POCF-376
発売中 42,540円

既天を突き抜けるような性急で軽快なハードなヘヴィじゃないんだよね。この人たちの。星のすわったリズムとファズのかかったギターが、足元から膝へとズンズン響き血の流れてドクドクさせられているの。サバス、モーターヘッド、フェイザバイン、MOSなどが引き合いに出される4人組の高揚4曲目は、プロデュースにホワイト・ゾンビのJ・スエレンガが監修された。これがもう、のらりくらりカコイノ / 下手なリリックなレトロ・バンドに成り下がりがりそうなどころも、多様なリズム/ギター・リフのサウンド/ヴォーカルの選択によって生まれる独特の成り立ち、興奮感とグループでもって見ている。ライブでも身体揺りたくなった。(佐藤 俊樹) **5**



TWO (ロブ・ハルフォード)

ヴァイアース

HR/HM

DML DMCR-5887
2,218円 税込 42,540円

先デビュー・プリーストのシンガー、ロブ・ハルフォードとナイン・インチ・ネイルズのトレント・メズナーが合併 / 本作に臨まれるのはメタルとテクノロジーを融合させた。一帯で言えばインダストリアル・メタルに近いもので、メタル・ファンにとっては往年のプリーストの「ワグデュレクター」以上の期待になりそう。ただ、ロブは増量なスクリームと暴走アンバーを創りながら見事な表現力を発揮しており、トレント・メズナーとは異なる次元に仕上がっている。トレントはエグゼクティブ・プロデューサーとしてアレンジメントに関与しており、隠微なプレイもしている。一見冷静な面のようにありながら、裏面には燃やしやすい(山崎 隆之) **6**